

資料編

【資料1】 保全すべき資源

【資料2】 保全すべき資源をめぐるルート例
(資源リスト)

【資料3】 「祭^{いのり}のまち」に似合う和風の建物

【資料4】 日光東町における屋外広告物の手引き

【資料5】 「街路デザイン」街並み・まちづくり
について (自主ワーキング資料)

『日光東町 おくの細みち』

ルート1：稲荷 社のみち

1	JR日光駅	ネオ・ルネサンス式建築様式（大正元年(1912)）竣工
		男体山石灯籠（享和2年(1802)）
		日光鉄道碑（明治27年(1894)）
2	東武日光駅	霧降大橋よりの日光連山展望
3	瑞雲山正見院龍蔵寺 （天台宗）	「重慶阿闍梨之塔」
		如意輪観音（約3m）
4	稲荷神社	稲荷神社頌徳碑（46名銘記）
		庚申塔多数
5	西行戻石	西行歌碑（小杉放菴揮毫）
6	シダレザクラ	市指定天然記念物（きなこや横町（別名 桶助横町））
7	鎮守虚空蔵尊社殿	神仏一体の姿を残す県指定文化財
		石玉垣に当時（文政9年(1826)）の東町6カ町の寄進者の名前が刻まれている
		庚申塔多数
8	芭蕉歌碑	他に3基あり（山内、安良沢小、大日堂跡）日光に計4基

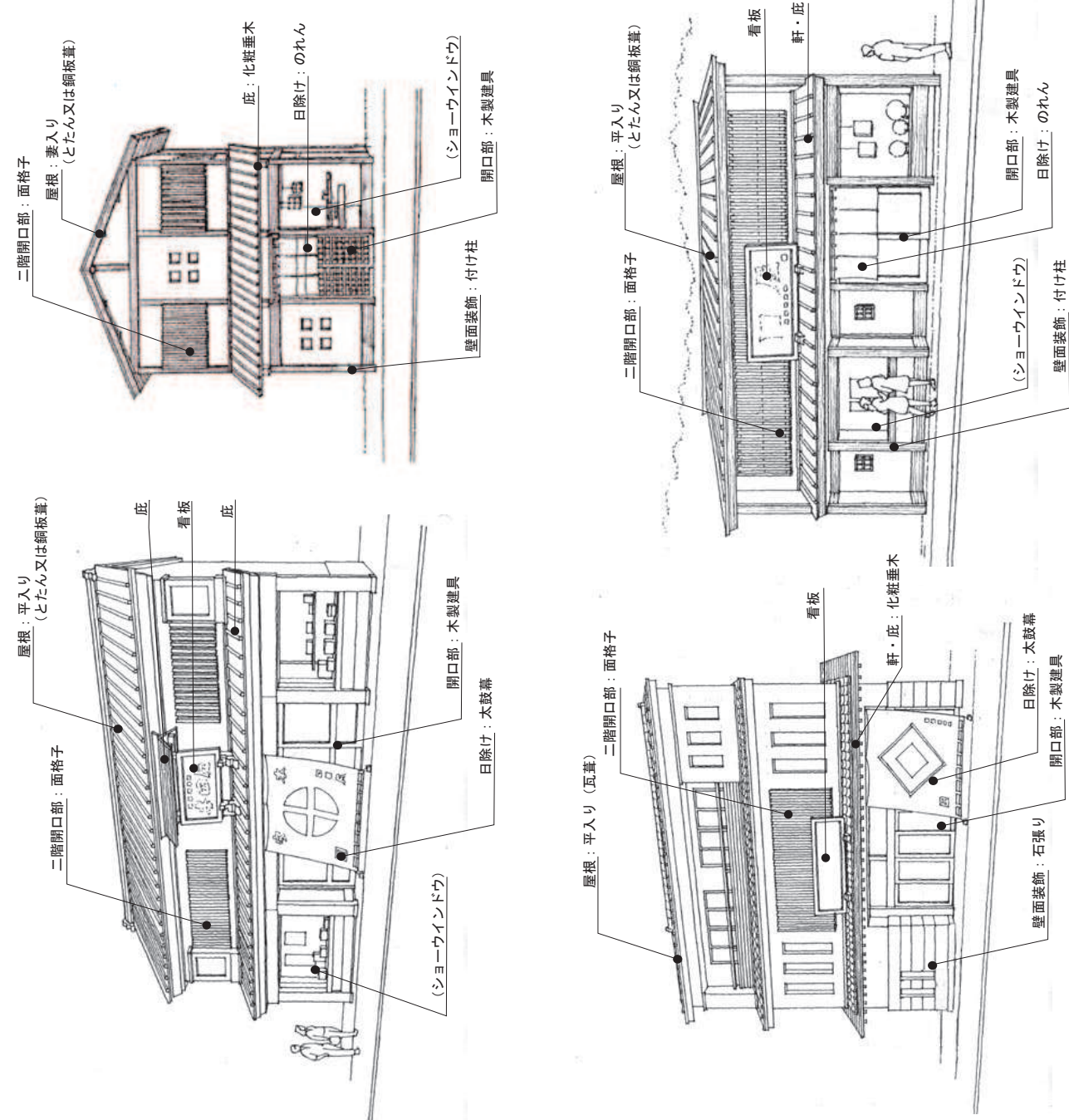
ルート2：山の辺のみち

9	松原町の石碑群 （公民館と志渡淵川を挟む）	20数基 供養塔、庚申塔、道祖神、弁財天、大黒天、十九夜塔ほか
		金剛童子石祠…3月8日縁日行事（松原町・石屋町交代で行う）
10	龍蔵寺墓地	市指定文化財
		十王堂を中心に墓石が並び
		「臼井清左衛門の墓」、「阪東の墓」（北白川能久親王殿下の愛馬、輪王寺門跡13代 皇族最後の座主職） 「水難供養塔」2基、「東照宮神馬の墓」4基
11	謙徳山最勝寺（日蓮宗）	満願日2月3日節分会 「鬼は外…」禁句
		鬼子母神奉安のため1月6日から35日間 寒修行
12	天王山→神主山（842） →鳴虫山（1104）	常宮・周宮殿下の歌碑
		市章（下賜された堤燈の紋章のデザインを採用）
		お手植の松の石柵・標石（銘あり）
		小幡源蔵君公德碑…松原町共有者により建てられた
13	天理教大教会	木曾檜造り・銅葺の神殿・宮殿 月次会（毎月18日）
		紅葉が美しい
14	姫小松	県文化財、天然記念物
15	郷土センター	弥生祭家体、日光彫 他
		観光協会（日光案内）
16	薬師堂（通称 瑠璃殿）	地藏菩薩うち1体
		『大横町和田内おき』の銘記あり（天明元年 1781）
		阿弥陀如来、庚申塔・十九夜塔 ほか多数
17	日光市役所 （旧 大名ホテル）	懸魚（正面入母屋部分）、石垣
		白亜に映える紅葉が美しい

ルート3：門前 鉢石のみち

18	鉢石	市指定文化財、道しるべあり 『右志やく □□ 左ちうせ □□ 』 (元禄3年10月(1690)) 初市(1月12日)(中鉢石で開催)
19	歴史的建築物	桁・軒先等数寄屋風の建築物
20	鉢石山観音寺	常夜燈(宝暦3年(1753))、草木塚、佐久間甘海句碑 ほか 梵鐘が時を告げる 春彼岸より6:00 秋彼岸より5:00
21	観音寺山門	山門前の六地藏尊・十九夜塔 八王子千人同心中の俳人たちの句碑か? 道しるべ 観世音道(宝暦2年(1752))
22	観音堂(大悲殿)	下野三十三観音第二番礼所(1711)再建 石仏(宝暦3年)、上鉢石女講中奉納額(文久2年(1862)) 日光街道展望
23	龍臥山	薬師堂辺よりの日光古道金谷ホテル付近へ通じる道 八坂神社(2004年 上鉢石町により再建される) 庚申塔(万延元年(1860))
24	歴史的建築物	戦前の和風建築物
25	板垣退助像と解説碑	32歳のときの官軍服装 原型像日光中玄関にあり
26	上鉢石稻荷社	庚申塔多数
27	星の宮(磐裂神社)	日光各地にある磐裂神社の本社(大同4年(809))鎮座 庚申塔(慶安3年(1650)) 燈籠外
28	吉新黒髪句碑2基	『神橋の映える瀨の岩魚釣り』、『日光の町を馬曳き草刈女』
39	星宿跡	石護摩壇・不動尊・外石像仏
30	金谷ホテル	近代洋風建築(明治21年(1888)) 東照宮彫物と共通するような装飾あり
31	二荒山神社神橋受付所	旧日光警察署上鉢石町派出所 入母屋の懸魚
32	下乗石	神橋とともに国重要文化財、一般には下馬と言われている
33	蕪村句碑	『二荒や紅葉が中の朱の橋』
34	神橋 (別名 山菅の蛇橋)	世界遺産、国重要文化財 明治37年(1904)再建、1997年4月~2005年3月修復工事完 弥生祭神事：4月16日、すす祓い：12月26日
35	天海大僧正銅像	日光山中興の恩人 市政20周年記念(昭和51年(1976))に建立 (倉沢實氏作)
36	杉並木寄進碑(境石)	国指定特別史跡、並木の由来が刻まれている 松平正綱の子・正信により建碑(慶安元年(1648)4月17日)
37	本宮神社	世界遺産 勝道上人草創 新宮(現 二荒山神社)、滝尾神社と共に日光三社
38	小杉放菴記念日光美術館	日光市名誉市民(旧日光小学校跡地)、平成9年開館

■ 『祭のまち』に似合う和風の建物（新築の場合）



日光東町の町づくりのテーマである、『祭のまち』にふさわしい和風の建物の例です。これは、新築の場合を想定して考えてください。また、改築や修景の際も、この内容を基本とします。ワーキングでは、「屋根は必要である」という意見がありました。それも踏まえて何を東町の建物の共通要素とするのかを考え、東町らしい街並みを作っていきます。

- ◇屋根、軒、庇
 - ア. 屋根の形状は、切妻、寄棟、入母屋などとし、屋根の勾配は、2寸5分以上とする。
 - イ. 屋根、軒、庇の色彩は、落ち着いた色調とする（こげ茶・黒・ダークグレー（銅版は可）等）。
 - ウ. 軒や庇には、祭りの際に提灯やお飾りなどを飾れるようにする。

◇外壁など
 エ. 外壁の色彩は、落ち着いた色調（ベージュ・茶・グレー・白（純白は避ける））等とする。
 オ. 外壁には、付け柱や石張りなどの装飾が望ましい。

- ◇開口部
 - 九. 開口部は木製、あるいは木製調に見えるものを使用する。
 - キ. アルミサッシを使用する場合は、色彩に配慮し、木製の面格子などで覆うようにする。
 - ク. 玄関などの開口部は、引き違い戸が望ましい。
- ◇看板、日除け
 - ケ. 看板は、天然素材を使用する。
 - コ. 天然素材を使用できない場合は、材質・形状・色彩に配慮して、街並みとの調和を図る。
 - サ. のれんや太鼓幕などの日除けは、生地・形状・色彩に配慮する。

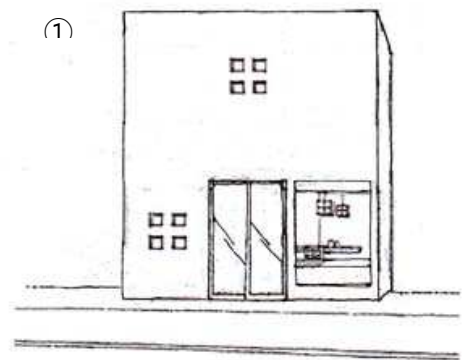
◇その他
 シ. 店舗は町のにぎわいを演出するよう、ショーウィンドウを設けるようにする。
 ス. のれんや太鼓幕の色は、町の特徴を演出するよう町ごとに基色を決めることが望ましい。
 ソ. 町印などもポイントとして活用する。

いのり
 ■ 『祭のまち』 にふさわしい建物の外観には何が必要？

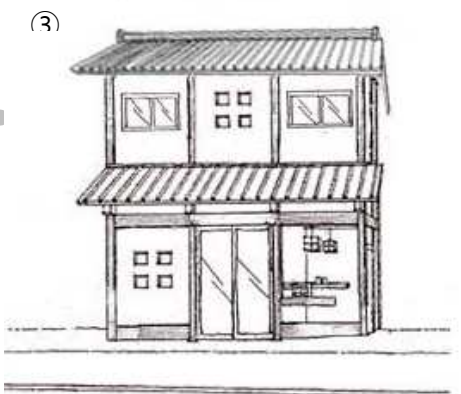
これらの建物の外観は、①の建物にどのような工夫をしたら和風調に見えるかを提案したものです。

(1) 屋根の有無、形状
 (2) 格子の有無
 (3) 軒の有無
 (4) 壁面装飾の有無、材料

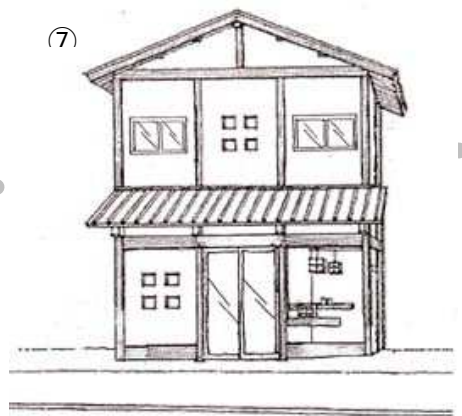
に注意して、『祭のまち』 にふさわしい外観や、優先的に必要な要素は何かを考えてみましょう。



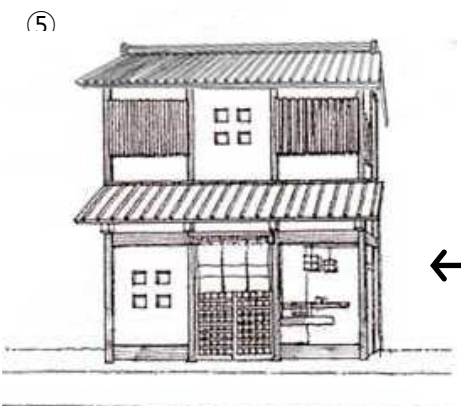
屋根	陸屋根
格子	無
軒	無
壁面装飾	木:無 石:無



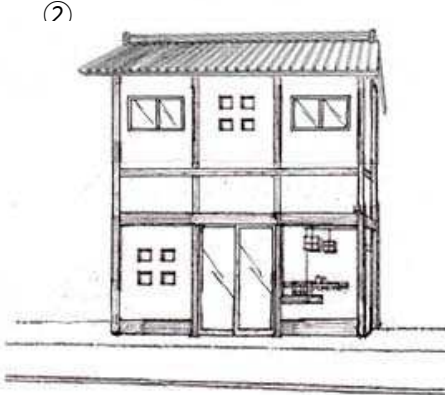
屋根	平入り
格子	無
軒	有
壁面装飾	木:有 石:無



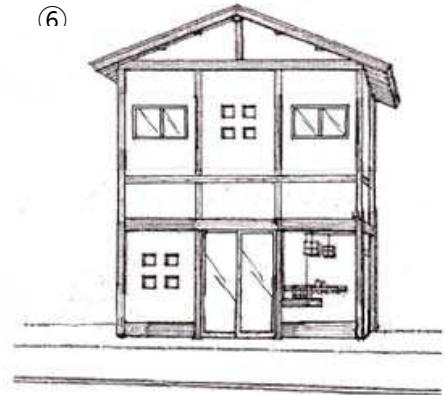
屋根	妻入り
格子	無
軒	有
壁面装飾	木:有 石:無



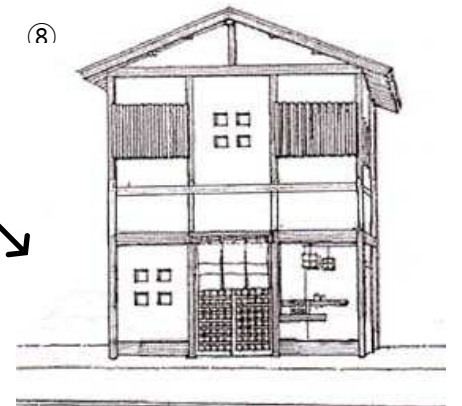
屋根	平入り
格子	有
軒	有
壁面装飾	木:有 石:無



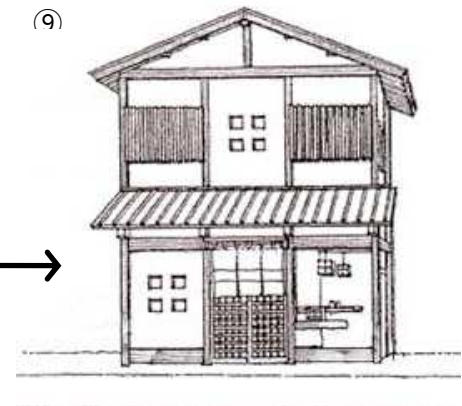
屋根	平入り
格子	無
軒	無
壁面装飾	木:有 石:無



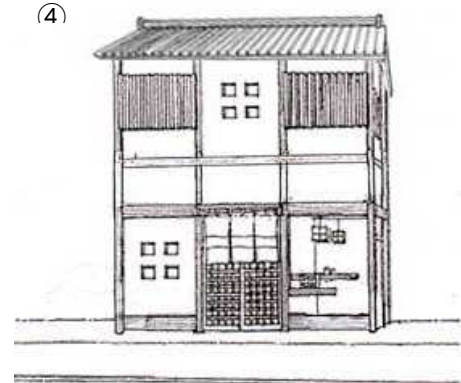
屋根	妻入り
格子	無
軒	無
壁面装飾	木:有 石:無



屋根	妻入り
格子	有
軒	無
壁面装飾	木:有 石:無

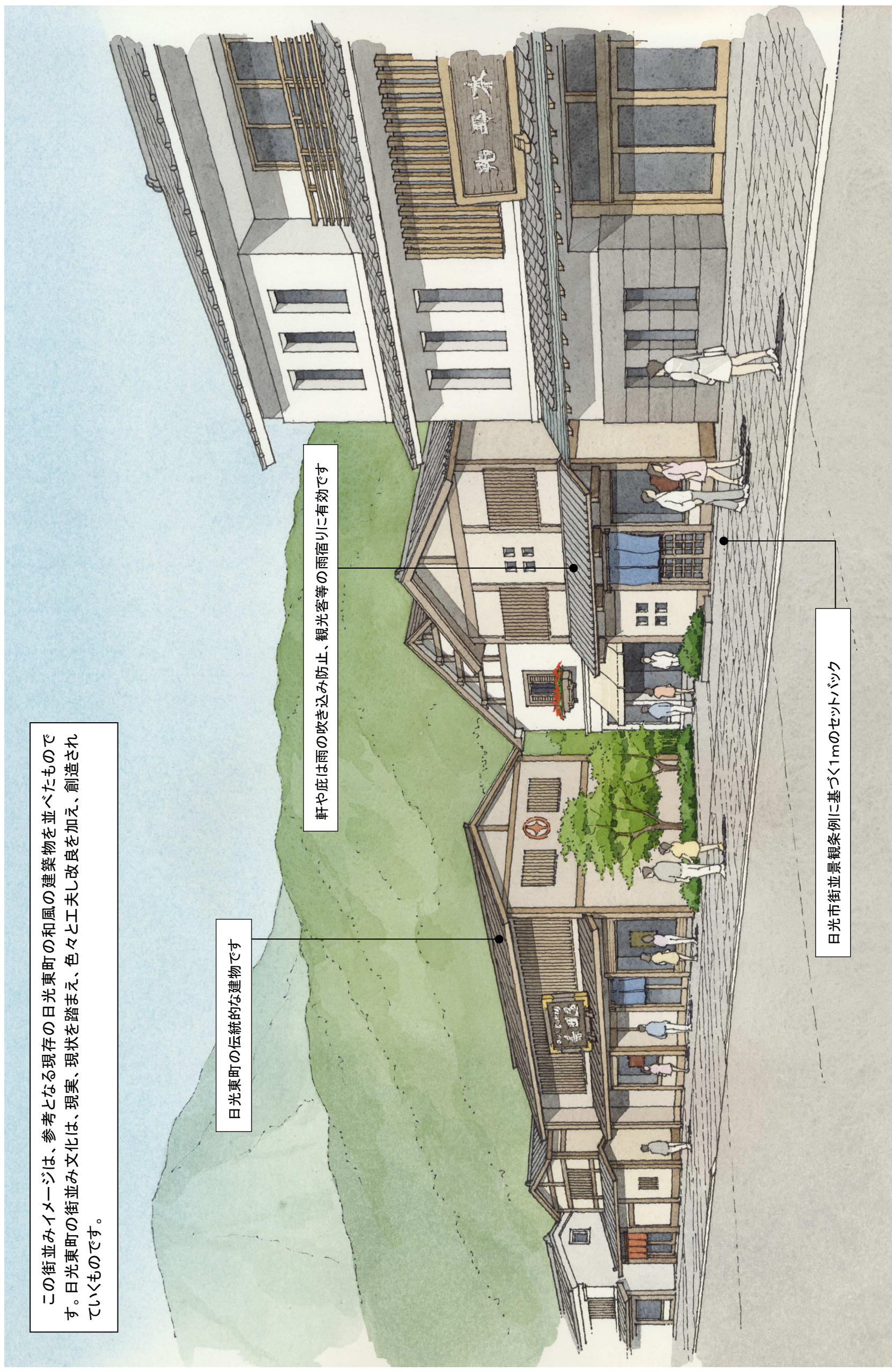


屋根	妻入り
格子	有
軒	有
壁面装飾	木:有 石:無



屋根	平入り
格子	無
軒	有
壁面装飾	木:有 石:無

■街並みのイメージ図



■日光東町における屋外広告物の手引き

栃木県の屋外広告物条例「日光地区景観保全型広告整備地区」並びに「景観保全型広告整備地区制度運用に係る指導マニュアル」を基本とし、「日光東町における屋外広告物の手引き」を以下に示す。

(1) 看板の種類および設置位置

日光東町は、栃木県屋外広告物条例では「市街地形成型地域」となっているが、世界遺産「日光の社寺」および日光国立公園の玄関口としては、街並みに合った規制が望ましい。看板の種類も、壁面広告物、壁面広告物ワンポイント、壁面突出広告物、敷地内独立広告塔に暖簾、太鼓幕を加えたものに限定する。(図中、赤枠)

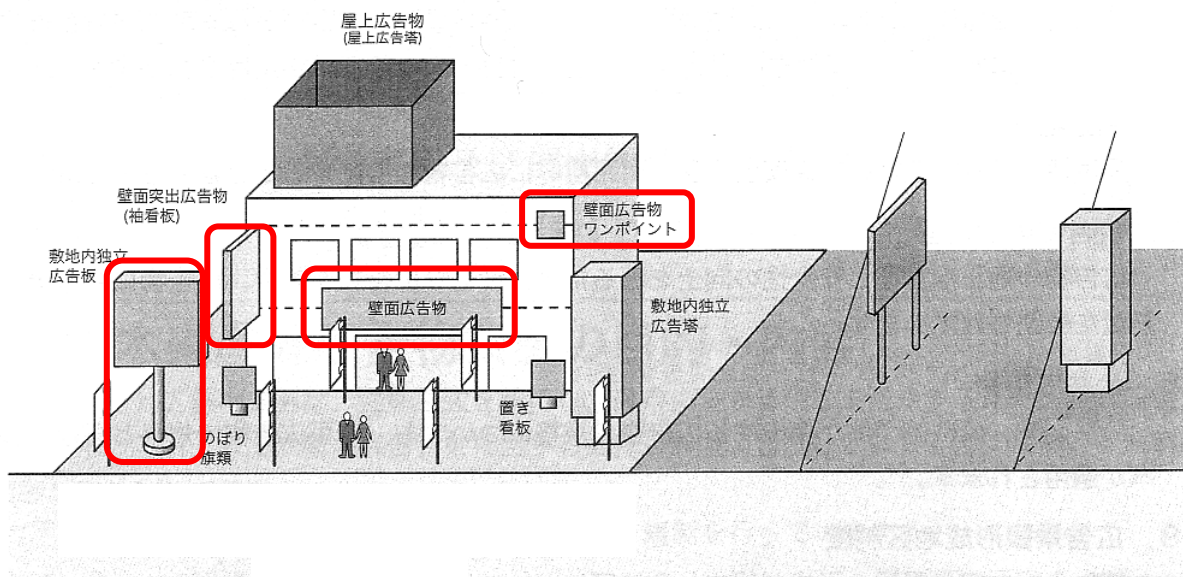


図-1 日光東町型屋外広告物の種類

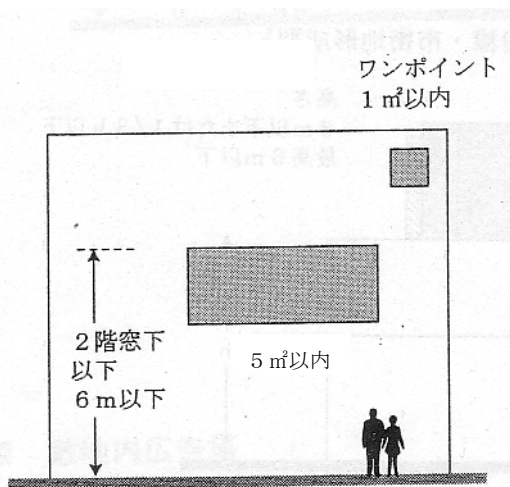


図-2 壁面広告物の位置

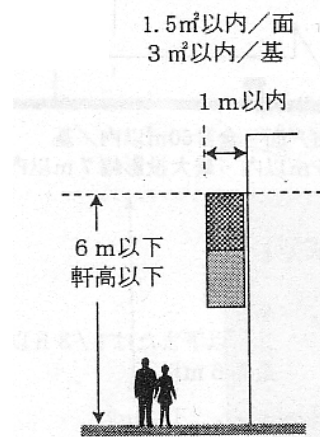


図-3 壁面突出広告物の位置

(2) 看板の高さ・面積・位置・基数・照明

具体的には、以下のような基準とします。

表ー1 看板の高さ等

	壁面広告物		壁面突出広告物	敷地内独立広告板
		ワンポイント		
高さ	・上端が2階窓下以下、かつ6m以下	・高さ制限なし	・上端6m以下、かつ軒高以下	・上端6m以下
面積	・5m ² 以内/有効壁面	・1m ² 以内/基	・1.5m ² 以内/面 ・3m ² 以内/基	・3m ² 以内/面 ・6m ² 以内/基
位置	・開口部への掲出不可 ・建築物からのみだし不可	—	・建築壁面から1m以内 ・道路への突出不可	・道路から1m以上離す
基数	・1基/有効壁面	・1基/有効壁面	・1基/有効壁面	・1基/敷地
照明	・過度な照明はやめましょう	—	—	・点滅不可

「街路デザイン」と街なみ・まちづくりについて

1. 「龍」「星座」「御幣（四たれ）」というモチーフと日光

(1) 東照宮「高藤氏」の聞き取り調査から（2005.2.24）

世界文化遺産である二社一寺と「龍」や「星座」の関わりについて、東照宮「高藤氏」に聞き取りを行った。

その結果、「龍」と「星座」は、二社一寺は日光に大変関係が深いことが改めて確認できた。

1) 日光東照宮に「龍」の彫り物が多い理由

- ・世界文化遺産である日光東照宮の最大の特徴は、彫刻が多いことにある。その彫刻の中でも、「龍」をモチーフにした彫刻が最も多い。優れた彫刻としては、唐門左右の柱の唐木象嵌（そうがん）の龍、陽明門の目貫の龍、拝殿向拝の丸堀の龍など、いずれも傑作中の傑作である。
- ・東照宮の龍の彫刻は、陽明門や拝殿など 13 棟の建物に、合計 159 体の彫刻（木彫）がある。普通の龍が 92 体で、他はその一族。飛龍が 43、龍馬が 24 体である。飛龍は羽のある龍のことで、水を司さどるものとされ、火伏せのためなどに用いられる。龍馬は蹄（ひづめ）を持つ龍で、駿馬のこと。陽明門と拝殿將軍着座間にあるだけである。
- ・何故、日光東照宮には「龍」の彫刻が多いのか。それは以下の理由による。

①「龍」は目出たい、縁起のよい動物と言われている。

②「龍」は 9 種類の動物の良い所を集めてできた空想上の動物である。姿は巨大な爬虫類、①頭は駝（らくだ）、②角は鹿、③目は鬼、④耳は牛、⑤項（うなじ）は蛇、⑥腹は蜃（しん）※、⑦鱗は魚、⑧掌は虎、⑨足は鷹の爪で 4 足、と 9 という数字は、これ以上に無い数字であることから、全ての動物の良い所を取った究極の動物である、と言える。

※蜃（しん）とは、蜃気楼を生み出す霊獣である。蜃気楼は仏語でミラーージュという。

③「龍」は古代中国から王権のシンボル、皇帝の代名詞でもあった。



蜃（しん、奥社鑄抜門）

- ④「龍」は人々の願いを持って天に昇り、願い事を叶えるために天より下ってくる。「龍」は幸せを運ぶ神の使いとなっている。



通路の間天井に描かれた狩野探幽による「昇(のぼり)竜」(左)と「降(くだり)竜」(右)。昇竜は別名「八方にらみの竜」、降竜は「四方にらみの竜」とも呼ばれている。



唐門の門柱にある寄せ木細工で作られた昇竜の迫力ある顔

〔出典〕 いずれも(社)日光観光協会HP



34枚のヒノキの天井板に描かれた、縦6メートル、横15メートルの鳴竜(奥社)



JR日光駅の鳴き龍
(出典) http://www.geocities.jp/go_go_train2001/nikkoutabi.htm

2) 日光東照宮と「星座」の関わり

- 日光東照宮をはじめ、二社一寺は北斗七星に見立てられている。陽明門の天井を中心に星座が回っている、と言われている。
- 江戸時代には「星」にまつわる祭りが多かった。輪王寺には、北斗七星にみたてた7つのお面が祀られている。
- 山王七社の「七」は、北斗七星を表している。

3) 歩道デザインと「御幣（四たれ）」

- 日光東町は祭りの多い街で、祭りが生活の中に密着している。祭りの時、しめ縄を付け御幣（四たれ）を吊すので、街路に御幣のデザインを表すことは、日光東町は二社一寺に至る神聖な地域を表すのに良いことではないか。
- また歩道に御幣のデザインを表すことは、「祭りの場」として相応しい。
- 御幣の向きは、山内に向けて「八」の字で良い。山内に向けて、来客が神聖な気持ちに高まって行く演出としては大変よい。

(2) 日光東町ワーキンググループの意見から (2005.2.24)

●まちづくりのテーマと「龍」

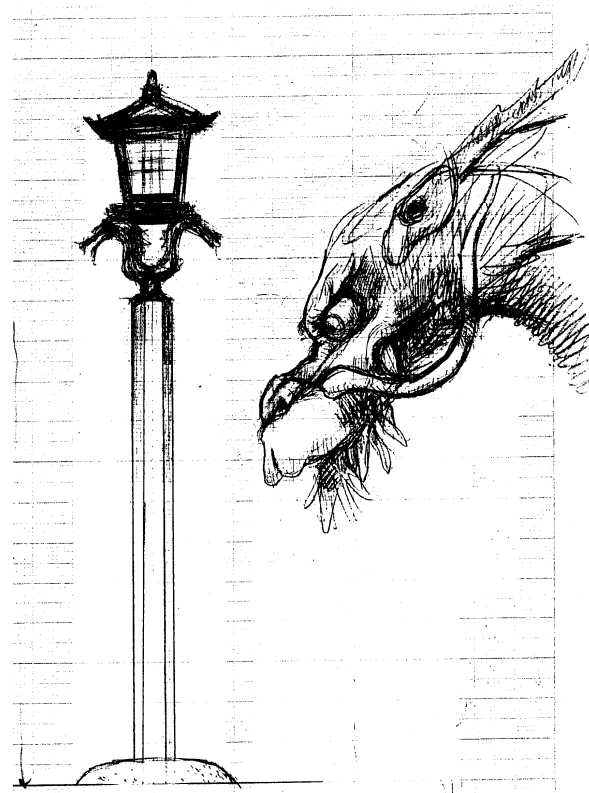
- 灯籠に「龍」をあしらうのは、「祭^{いのり}のまち」というテーマに基づいて考えられたデザインで、龍が町の人、人々の暮らし、訪れた観光客を見守ってくれているという空間づくりを目指すものである。
- 龍は幸せをもたらすと言われていることから、「祭^{いのり}」のまちのコンセプトに沿っている。天に人々の願いを伝え、人々の夢や願いをかなえるために降りてきてくれる、という謂われがある。

●日光の町のそこかしこに見られる「龍」のモチーフ

- 東照宮の陽明門やJR駅の天井の鳴き龍、勝道上人の像の脇の吐水口など、日光東町の街なかの至る所に、龍のモチーフが用いられている。

●日光の「水」と「龍」

- 規範に「水を大切にしましょう」とあるが、白龍は滝を意味しており、水と龍は関係が深く切り離せないものである。水は禊ぎに通じることはいままで議論してきた通り。また、日光七滝など水と日光とは切り離せないなど、色々と結びつく。
- また、住吉神社の水神の解説を参考にすれば、水は蛇行して流れることから蛇や龍を「水の化身」としているところが多い、ということである。



●神橋と「龍」（山菅の蛇橋の伝説）

- 天平神護2年3月（766年）勝道上人一行が大谷川のほとりにたどりつき川を渡ろうとしたが、岩をかんで流れる大谷川の激流のため渡る方法がなく困り、上人がひざまづいて一心に祈念を凝らしていた。すると、川の北岸にひとりの神人が現われ、上人に向かって「我は深砂^{じんじや}大王である。汝を彼の岸に渡すべし」といいながら手にもった蛇を放つと、赤と青二匹の蛇が、たちまち川の対岸を結び、虹のように橋をつくり、背に山菅の葉が生えた。上人一行は早速これによって急流を渡ることができたといわれている。

（参考：（社）日光観光協会 <http://www.shinkyo.net/shinkyo2.html>）

- このような伝説から、神橋は別名「山菅の蛇橋」と呼ばれ、神橋と蛇（龍）は関係深いと言える。

●観光地と「龍」

- 日光の守護神とも言える「龍」は、もとは蛇である。蛇は世界的にみても神として祀られている例が多い。日光東町にとって「龍」は旅行者を見守っている神である、と言える。
- お土産として「龍」をかたどったものが多いし、良く売れる。日光は龍の多い街、龍に守られているというイメージを子供らが持ち帰ることも良い。

●星座（北斗七星）と「龍」

- 一説には、龍は春分に天に登り、秋分には地に潜むともいわれる。これは、北斗七星の動きと関連するものと思われる。北斗七星は、一般には柄杓の形と言われるが、龍の形にも見える。すなわち、升の部分が頭部で、柄が胴体と尾に相当する。そしてこの星座は、春分には夕方東方天に昇り、秋分には西天に沈む。東天に昇る北斗七星は、さながら雲を呼んで天に昇る巨大な龍そのものである。

〔資料〕 図説「社寺建築の彫刻」～東照宮に彫られた動植物～、高藤晴俊、東京美術、2003.2.10

2. 日光コスモロジー

古来、日本では星信仰はかなり一般的なものであった、奈良時代には禁止令が出されるほど庶民の間で熱狂的な広がりをみせ、平氏を始めとする平安時代の貴族階級、室町幕府の歴代将軍、そして徳川家康の日光東照宮造営に至るまで、その星信仰の影響が見て取れる。

星座に対する思いや信仰が無くなったのは、現代社会であり、そこに意味を見いだせないのは現代人の無関心と無知に他ならない。

その失われかけたコスモロジーの神話が、奥日光の大自然の中にも息づいているし、日光東照宮の中にもマイクロコスモスとなって残されているのである。そのコスモロジーを予感させるプロローグを奏でる空間こそが、日光東町なのである。

(1) 「日光コスモロジー」(「日光山小史」 山本忠史氏著より)

日光は、風水思想を超えた神秘の逸話がある。日光東照宮の配置は、滝尾神社、外山、釈迦堂、本宮等で「オリオン座」を形成し、これらと関連して、女峰山、赤薙山、丸山等で「北斗七星」を形成する。また、男体山は「北極星」に見立てることができ、さらに、中禅寺湖に点在する、二荒山中宮祠、華厳の滝、立木観音、旧五大尊岩が「はくちょう座」を形成するという。

家康の霊廟を日光に移した天海大僧正は、この日光の山々の壮大なコスモロジーを意識していたと言われる。

二社一寺は、「神橋」で聖別される聖なる世界の表の世界で、中の世界は、中禅寺湖、戦場ヶ原等、奥の世界は、神々が宿るそれぞれの山頂である。

東照宮を中心とした結界は、南を男神新宮、北西を女神滝尾、東南を若宮本宮の二等辺三角形で形成されている。こうした風水に基づく思想は、基本的に 1,200 年前の上人の宇宙観と同じと言われる。

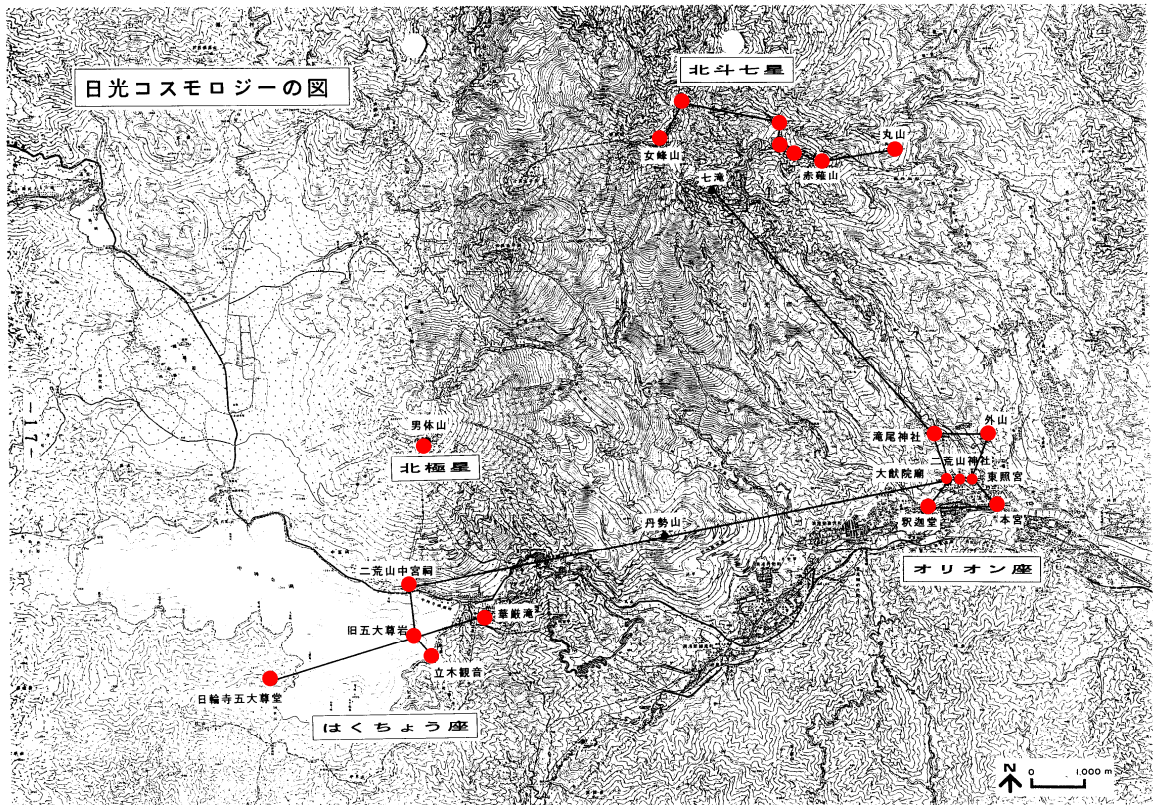


図 日光コスモロジーの展開図

(資料)「日光山小史」 山本忠史氏の資料に基づき、(株)地域開発研究所が作成

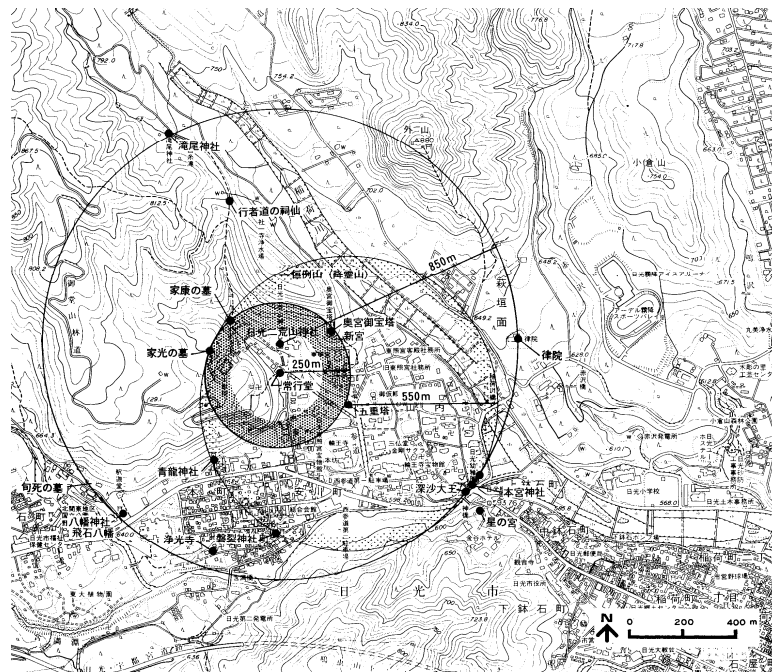


図 風水思想（コスモロジーに関連）に基づく二社一寺の結界

(資料)「日光山小史」 山本忠史氏の資料に基づき、(株)地域開発研究所が作成

(2)「祭 (いのり) のまち」と「日光コスモロジー」

いのり
祭 のまちと日光コスモロジー

日光御山内には人々の祈りを受けとめる仕組みが星座の形で存在する。祭 のまちをテーマに御山内につづく街路のデザインを検討するにあたって、街路に星座を描くこととする。

1. 描く星座と位置

- ◎オリオン座 位置・松原町：日光及び 祭 のまちの入口
- ◎北斗七星 位置・松原町～上鉢石町の各町境5箇所
- ◎ハクチョウ座 位置・上鉢石町天海大僧正像前

2. 各星座の意味付けとストーリー

山王鳥居にも見たてることが出来るようにオリオン座は日光そして 祭 のまちの入り口にふさわしい星座である。鳥居は聖域への入り口を示す門でありオリオン座はまさに門の意味づけにより配置する。また、鼓星とも呼ばれることから 祭 のまちに入ることを音により神仏に知らせる意味もある。

祭 のまちは次に天皇大帝(北極星・北辰星)の乗り物・帝車であり、人々のいのりをすくい上げる大匙、北斗七星により表現される。空の大時計である北斗七星を90度ずつ回転させ5箇所に配置する。最初と最後が同じ形になるがちょうど360度回転したことになる。これにより1日を示し、さらに 祭 のまちの時空が永遠であることを表現する。

最後にいのりと共に天空に飛翔するハクチョウ座が御山内の仕組みを創られた天海大僧正像前に配置されることにより、祭 のまちから祈りの地である御山内に入ること表現する。日本武尊の伝説(白鳥・鸞)などにもあるように白鳥は神聖な神の化身として見立てることも出来る。

3. 「龍」「星座」というモチーフと街なみ

これまで見てきたように、日光東町まちづくりとまちづくりのテーマである「^{いのり}祭のまち」をコンセプトとした4つのデザインモチーフ（水、龍、コスモロジー、御幣）は、日光東町にとって必須のデザイン要素であり、まちづくりに応用することは必然である、ということが理解できたはずである。

まちづくりに関しては、ポケットパークの中や街路の中で色々に用いることが可能であるが、敢えて現段階で、街なみと4つのデザインモチーフを関連づけるとすれば、以下のようになる。

- 水は、おもてなしとしてのお茶の提供をしたり、店先には手水を置くこととする。
- 龍は、日光彫りで表札に色々な龍を彫り込むとか、玄関先に欄間を作る際のモチーフにする。
- コスモロジーは、既に家々に設置されている鳥居が、オリオン座に見立てることができるし、「まちづくり規範」にもあるように、日光学を研究していく中で体系化されるものである。
- 御幣については、祭りの際、御幣を吊すため、軒先を設置するととする。軒先は、和風の街並みの要素であり、向こう三軒の連続性を担保するラインともなる。

一言付け加えれば、街路やポケットパークに「^{いのり}祭のまち」の4つのデザインモチーフを先行的に用いることにより、地域住民の意識もさらに高まり、街なみにも反映されて行くような効果を期待している。

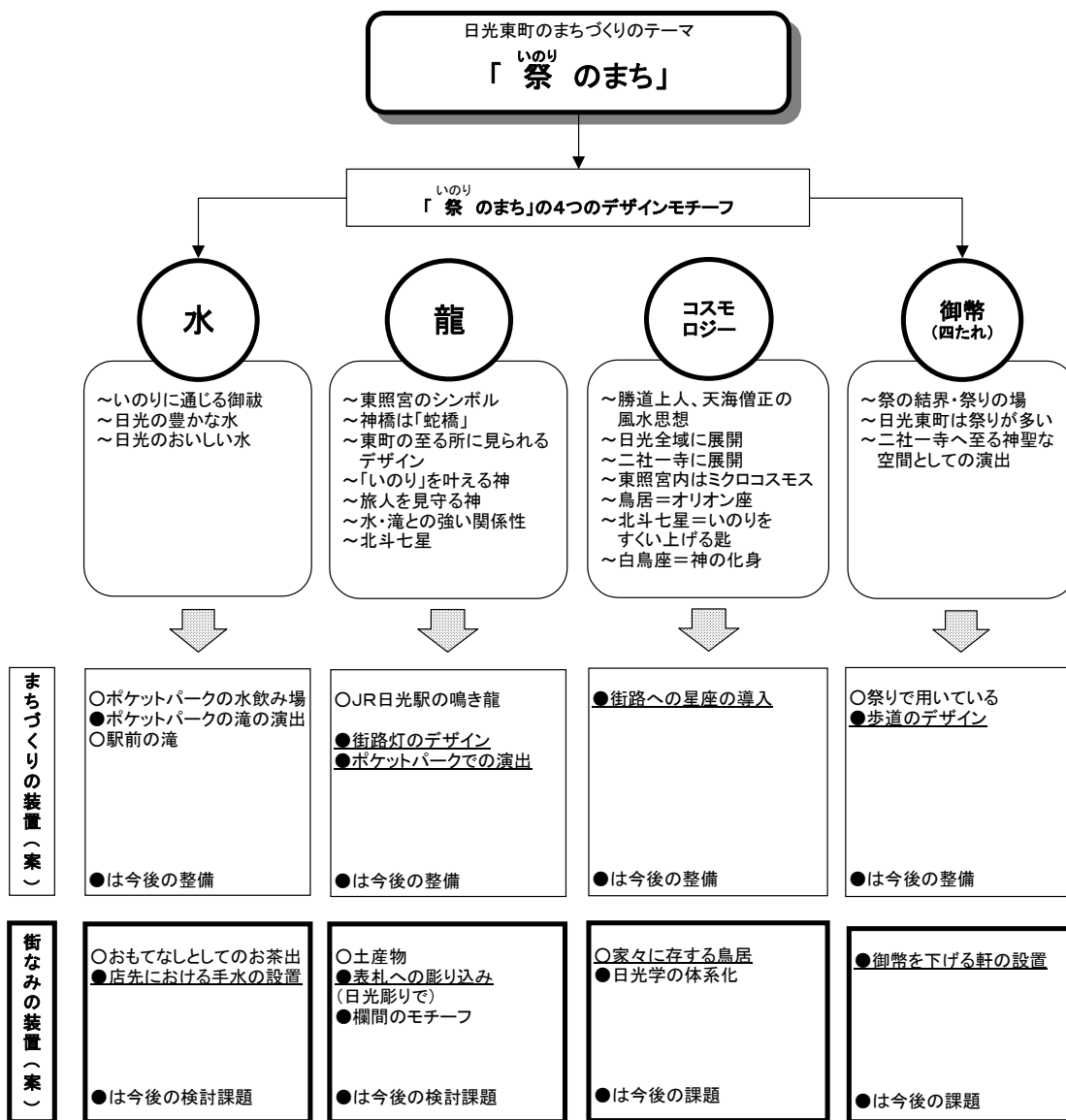


図 「^{いのり}祭のまち」の4つのデザインモチーフと「まちづくりの装置」「街なみの装置」としての展開イメージ

日光東町まちづくり推進委員会 委員名簿

役職	氏名	所属	前任者
委員長	倉澤 實	日光市専門委員	
副委員長	渡辺 輝資	御幸町自治会長	
委員	吉田 豊	上鉢石町自治会長	
	福田 昭男	中鉢石町自治会長	鬼平 庸
	齋藤 清一郎	下鉢石町自治会長	
	石川 義男	石屋町自治会長	
	吉新 且夫	松原町自治会長	
	高橋 忠吉	稲荷町一丁目自治会長	
	石川 克己	稲荷町二丁目自治会長	
	中村 雄一	稲荷町三丁目自治会長	
	仙波 清	相生町自治会長	
	羽石 晃	東和町自治会長	
	根本 英三郎	日光地区商工会議所副会頭	
	飯村 廣壽	栃木県土木部参事兼日光土木事務所長	大垣 悦男 関口 行雄
	青木 幸平	日光市助役	
	阿部 哲夫	日光市企画課長	
	佐藤 茂	日光市建設課長	松本 弘行
大久保 政一	日光市観光商工課長	大橋 忍	
本間 宏昌	日光市都市整備課長		

※ 稲荷町一丁目・二丁目・三丁目・相生町・東和町自治会長は、平成16年度から加入。

※ この名簿は、平成17年6月現在のものです。

日光東町まちづくり推進委員会ワーキンググループ 委員名簿

役職	氏名	所属	前任者
座長	倉澤 實	日光市専門委員	
委員	竹内 俊朗	上鉢石町代表	
	小栗 都美子	上鉢石町代表	
	相良 延利	中鉢石町代表	
	落合 良美	中鉢石町代表	
	森 直生	下鉢石町代表	
	高野 典子	下鉢石町代表	
	田口 光英	御幸町代表	
	齋藤 歌子	御幸町代表	
	大貫 史明	石屋町代表	
	岡井 良子	石屋町代表	
	小野塚 正則	松原町代表	
	竹谷 朋子	松原町代表	
	星野 和幸	日光地区商工会議所 日光事務所長	
	齋藤 守	栃木県日光土木事務所企画調査課長	鈴木 昌司
	高橋 宏樹	栃木県日光土木事務所企画調査課	見山 豊
	篠崎 正二	栃木県日光土木事務所道路整備第一課長	羽石 賢二
	渡辺 英男	栃木県日光土木事務所道路整備第一課	
	若梅 宏之	栃木県日光土木事務所道路整備第一課	金子 昌由
	大垣 都四郎	栃木県日光土木事務所建築指導担当主幹	手塚 保夫
	中村 清哉	栃木県日光土木事務所建築指導担当	
	本間 宏昌	日光市都市整備課長	
	福田 栄仁	日光市都市整備課長補佐兼都市計画係長	
	長南 哲生	日光市企画課企画係長	
大橋 昭二	日光市建設課土木係長		
長 修	日光市建設課建築係長		
宮下 浩美	日光市観光商工課商工振興係長	鈴木 久雄	
アドバイザー	小池 渉	栃木県建築士会日光支部長	
	阿部 健司	栃木県建築士会日光支部副支部長	
	手塚 順	栃木県建築士会日光支部青年部長	

※ この名簿は、平成17年6月現在のものです。